

令和3年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	具体的な取組	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒個々の学力を伸ばさせて専門学習の土台となる基礎学力の定着を図り、主体的に学び課題を解決する力を養う。</p> <p>②生徒が諸活動に主体的に取り組む態度を養う。</p>	<p>①農業科3科と生活科学科の全年次が揃い学科改編で併置を生かすために「編成した教育課程を検証する。</p> <p>②感染症対策を講じた行事を生徒主体で企画・運営する。</p>	<p>①年2回の生徒による授業評価、研究授業及び課題研究の成果、発表会の充実を図る。</p> <p>②生徒会本部を中心に各委員会と連携し、各クラスの意見を反映させ、行事を企画・運営する。</p>	<p>①生徒による授業評価7月21日、12月24日及び3年次魅力と特色アンケート1月13日実施。</p> <p>②体育祭（5月）、文化祭（10月）、スポーツ大会（12・3月）を実施し、感染症対策を考慮した企画を、実行委員で発案し、各クラスから意見を聴取したうえで、取り組んだ。</p>	<p>①生徒による授業評価の項目、3及び魅力と特色づくりアンケートの課題の発見と解決に向けた学習活動への肯定的な意見が80%以上得られ、目標を達成できた。</p> <p>②今年度の生徒会主要行事を、生徒主体で全て実施することができた。また、文化祭のアンケートでは、主体的に取り組めた（84%）、感染症対策ができた（96%）の回答を得られた。</p>	<p>①全体では目標値を達成できたが70%台の教科がいくつかあった。分散登校やオンライン授業、短縮授業等感染症対策下でもあっても、他者の考えを知り、自らの意見を広げ深める機会を工夫、授業改善の必要がある。</p> <p>②各行事を実施できた半面、各アンケートでは、種目や企画などの新しい試みや、運営方法について、複数の改善すべき点が挙げられたため、次年度に向けて検討の余地がある。</p>	<p>①アンケートから概ねすべての項目で肯定的な意見が見られた。本校のキャリア教育により社会的・職業的自立のために必要な能力が身についたと自覚している生徒も85%以上あることは評価できる。</p> <p>②感染症対策を講じながら生徒会の各行事を無事に実施することができた半面、課題も散見されているので、来年度も引き続き生徒とともに安全に配慮した行事運営を実施していただきたい。</p>	<p>①本校での学びを通して中学校より人を思いやる気持ちが身に付いたり、思考力・判断力・表現力を高めた実感している生徒が8割を超えていることは評価できる。基礎学力の確実な定着と時代に即した専門性を伸ばさせることが課題である。</p> <p>②今年度の生徒会主要行事を、生徒主体で全て実施することができたが、各行事内の種目や企画などの新しい試みや、運営方法について、多くの課題が発生した。</p>	<p>①専門高校に学ぶ生徒の学力の幅が広いことは認識している。基礎学力は専門学習の土台であり、教科を横断した視点で、効率的な学びの仕組みを創ることが求められる。</p> <p>②各行事における要項を見直し、運営における時間配分や手順を再考し、種目や企画についても生徒と改めて意見を交換し、改善を図る。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>生徒一人ひとりの個性を尊重して自己肯定感を高め、ニーズに応じた支援・指導を行う。</p>	<p>①生徒指導内規や校則について、生徒の実態やニーズと合致しているかの整理及び見直しを図る。</p>	<p>①科や年次など、全体の意見を集約して、生徒の実態に合致した内規の見直しを図る。</p>	<p>①グループ内で内規見直しのための話し合いを開始し、原案の作成に取り組むことができた。今後、話し合いを進め、科や年次の意見を取り入れていきたい。</p>	<p>①11/4 企画会議提案。年次会の意見を集約し、グループ会議にて再検討したものを12/22 職員会議で提案し決裁いただくことができた。</p>	<p>①新年度においても、生徒一人ひとりの個性を尊重して自己肯定感を高め、ニーズに応じた支援・指導を継続しながら、生徒の実態に合致しているかを検討し、必要に応じて改善していく必要がある。</p>	<p>①全職員の意見を得られるように、グループ、年次の意見を取り入れ学校全体の意見として、内規の見直しに取り組んだ様子が見られた。今後にも必要に応じて生徒の実態に合った内規の見直しを図って欲しい。</p>	<p>① 全職員の意見を集約し、内規の改定に取り組むことができた。他にも生徒の実態に合致しないルールや校則などがある場合には、同様に改定を図っていきたいが、生徒の実態に合致しているかの判断が難しい。</p>	<p>① ルールや校則の改定については、教員の意見だけでなく、生徒の実態に合致しているかどうかの判断として、生徒の意見や保護者の意見を取り入れてみることも改善方法として取り入れたらよいのではないかと。</p>
3 進路指導・支援	<p>生徒の社会的職業的自立を目指して職業観、勤労観を養うよう早期からの進路指導の充実を図る。</p>	<p>①進路選択に向け、自ら考える姿勢を身につけさせる。</p> <p>②卒業後の社会参加について、意識向上を図る。</p>	<p>①志望理由書等の書き方や面接マナーの講習を充実させる。</p> <p>②分野に外部講師の活用を推進する。</p>	<p>①面接指導では、外部講師と担任を中心とした教員で指導を行い、志望理由書のかきかたは個別指導を中心に行う。</p> <p>②1・2年生で、外部講師によるガイダンスを行う。</p>	<p>①面接については個別に指導できたが、志望理由書については十分ではなかった。</p> <p>②各年次3回行うことができた</p>	<p>①生徒と教員の個人つながりからの指導が多かった。</p> <p>②多くの生徒は前向きに取り組めた。</p> <p>①②いずれも関心を持たない、取り組めない生徒いる。粘り強く指導をしていく。</p>	<p>①、②専門学科高校として、地域に貢献する職業人の育成に励んでいただきたい。また、高卒後、大学等で学生として学ぶ意欲の強い学生の育成にも励んでいただきたい。</p>	<p>①、② 多くの生徒が進路について自ら考えるようになってきているが「活動する。」という部分は不足している。</p>	<p>①、②・情報発信を充実させ、生徒が行動するきっかけづくりをする。 ・物事を考え、表現する力が不足しているため基礎学力の充実を学事グループと連携して図る。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	具体的な取組	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	地域との連携を充実させ、地域に貢献する産業人材の育成を通して信頼される学校づくりを進める。	①地域に開かれ地域とともにある学校づくりを目指し、タイムリーに情報発信を行う。 ②開成町、JAなどと連携の継続・発展を図る。	①学校HPやTwitter、学校紹介用のチラシの充実を図り、迅速に情報を発信する。 ②幼・小・中・高校の連携事業を実施する。	①学校HPは随時更新している。また、毎月、校内の様子をA4用紙1枚程度にまとめ情報発信した。学校紹介用のチラシは各科ごとに作成し、説明会等で配付した。 ②開成町との連携をこれまで以上にしっかりと行い、収穫した枝豆を小学校に届けたり、中学校に作品を展示するなどした。	①学校HPにおいて、毎月の校内の様子を掲載するなど月に4～5回程度の更新がされている。また、説明会においても学校紹介チラシを配布することにより活用できた。 ②現在の状況で実行できることを実施した。	①生徒の活動の様子や学校の動き等がより伝わる工夫を検討する。 ②現在のようなコロナ禍が継続することを想定して、できる連携事業を検討する。	①引き続き、学校の様子がわかるような方法を模索し、情報の発信をして欲しい。 ②地域との連絡・報告を密に行う。	①学校HPや地域の広報誌、学科を紹介したチラシを作成し、地域に向けての情報発信の充実ができた。今後は、生徒の活動の様子が伝わりやすい工夫を検討していく必要がある。 ②生徒がかかわる事業を増やしていく。	①学校HPを活用し、定期的に校内の様子等の情報発信を心掛ける。 ②開成町・JA・企業等との連絡を密にする。
5	学校管理 学校運営	安全、安心な学校生活のための教育環境を整備し、すべての職員が学校教育目標を共有して農業や生活産業分野の教育活動の継承・発展を進める。	①開成町防災担当者との連携を図る。 ②校内環境を整える。 ③コミュニティスクールの各部会と連携を図る。 ④ICT利活用のための情報機器の整備と研修会を実施する。	①避難場所や防災物品を確認する。 ②校内環境を点検し、整備計画を立てる。 ③コミュニティスクールで学校の課題を共有し、意見を精選する。 ④TeamsやG-suiteの利活用方法等の研究を行い、研修会を実施する。	①今後実施予定 ②今後アンケートを実施し、計画を立案する ③7月に第1回のコミュニティスクールを開催した。 ④Teamsを利用した職員間で伝達事項の確認や情報交換が実施されている。また、授業においては、G-suiteをはじめとし、ICTの効果的な利用がされている。	①開成町防災担当者と打ち合わせを行い、避難計画について共有することができた。 ②PTAと協議し、業者によるトイレ清掃を行うことができた。 ③コミュニティスクールで地域の方との連携がとれ、これからの吉田島高校の在り方に対して有意義な意見交換ができた。 ④ICTの利活用についての研修会等で積極的な参加が見られた。また、その内容の情報が職員間でも情報共有できた。	①今後は水害の避難計画について開成町防災担当者と打ち合わせを行う必要がある。 ②整備計画を年度当社に提案できるよう、前年度からの検討を行う必要がある。 ③地域との連携をさらに深めていく必要がある。 ④ICTの授業でより効果的な利活用に向けて研修の機会を増やす。	①地域の防災は非常に重要なことであるので、今後も町と学校で十分に連携を図ってもらいたい。 ②生徒が学習に集中できるように、整備を進めてもらいたい。 ③吉田島高校ならではのコミュニティスクールを展開してほしい。 ④1人1台パソコンに向けて効果的な活用方法を引き続き模索してほしい。	①開成町防災担当者との打ち合わせを行い、避難計画の共有ができ、水害避難についての計画を行う必要がある。 ②校内整備が必要な個所を把握することができ、整備を実施することができた。 ③地域との連携を図り、有意義な情報交換ができた。 ④授業等においてもICTの利活用をすることにより、授業内容の理解を深めることができた。	①開成町との連携を最重要課題としてとらえ、PTAとともに三者で防災について情報を共有し、生徒の指導に当たっていく。 ②PTAとも連携をとり広い視野で捉え、計画を立てる。 ③引き続き地域との連携を深めていきたい。 ④1人1台パソコンに向けて活用方法お検討が必要である。

